

新型コロナウイルス感染拡大を受けた「卓越大学院プログラム」事業の中間評価の方針について（案）

卓越大学院プログラム事業は、7年間の計画に基づき、その達成度によって各プログラムの評価を行うことを予定しています。しかし各プログラムが採択時点で設定している目標値の中には、新型コロナウイルス感染拡大の影響により当初予定していた時期での達成が困難なものも多くあると承知しております。

そのため、令和3年度に実施する予定の平成30年度採択プログラムの中間評価については、当初計画における数値目標の達成度合いだけで評価することは適切ではなく、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて行った代替措置等をも勘案して評価することができるよう、現在、卓越大学院プログラム委員会及び審査・評価部会で検討を進めているところです。

評価要項等の詳細は令和3年2月頃の決定を予定しておりますが、現在検討している対応方針は、別紙「令和3年度実施の中間評価における新型コロナウイルス感染拡大に係る影響の取扱い（案）」の通りです。

当委員会としては、各プログラムが代替措置等を検討、実施するにあたって、他のプログラムにおける新型コロナウイルス対応の効果的な取組事例などを共有することが有益と考えることから、今後、

- (1) PO 現地訪問や委員現地視察等で確認できた各プログラムの対応事例の共有
- (2) 各プログラムが他のプログラムの対応について質問や確認したい事項の情報共有についても併せて進めていきたいと考えています。

これらについては準備が整い次第、文部科学省及び（独）日本学術振興会からご連絡いたします。

各プログラムにおかれては、現在の厳しい状況下で、各プログラムの人材養成目的を最大限達成できるようご対応いただいているところですが、当初の数値目標に過度に捉われることなく、引き続き必要な取組を進めて頂くようお願いいたします。

令和2年11月●日
卓越大学院プログラム委員会
委員長 濱口 道成